



ゼロから創る奈良

奈良市長

2021.4.25 Vol.85

仲川げん ニュースレター

書：紫舟



TOPIC

気持ちを新たに、次の挑戦へ

3月定例市議会の代表質問で私の出处進退について質問があり、決意を述べさせていただきました。思い起こせば12年前、右も左も分からず「自分がやるしかない」という気迫と正義感だけで市長を目指したのが早や12年前。当時は33歳、まだ独身で3人の子どもは影も形もありませんでした。市民感覚が通じるまっとうな市政を実現したい、一部の人の利益ではなく皆が幸せを実感できる政治を形にしたい、若者や女性がもっと活躍できる奈良を創りたい、そう願って走り続けてきました。

紙幅の関係で全ての取組みを上げる訳にはいきませんが、前任の藤原市長から引き継いだ保健所施設の建設や市立奈良病院の建替え、さらには看護専門学校の開設や休日夜間応急診療所の移転建替えなどは、現下のコロナ対策に大いに役立っています。また小中校の耐震化やエアコンの整備、中学校給食の実現やトイレの洋式化など、子どもや保護者の長年の課題であった教育環境の整備も加速して取り組んできました。近年は子育て世代の転入が増加しており、同世代の転入超過数が二年連続全国ベスト

20に入るなど、子育て世代に選ばれる街としての認知が定着してきています。

土地開発公社の解散や新斎苑建設事業、また児童相談所の開設はいずれも緊急性・重要性の高い事業であるにもかかわらず、これまでは先延ばしとなってきた事業です。事業進捗は困難を極め、今もなお軋轢が残っていますが、私自身があらゆるリスクや批判の矢面に立ってでも、逃げずにやり切らなければならない仕事だと思い注力してきました。お陰様で議会や職員、そしてこれらの取組みを支持して頂いた多くの市民の皆様のお力で、新斎苑も児相も来春の完成を目前としています。一方、新グリーンセンターの建設や八条・大安寺地区の新駅を中心としたまちづくりなどは、正にこれからが重要な時期に差し掛かります。

今、奈良市は大きな変革と成長の「夜明け前」です。新型コロナという誰も経験したことの無い未曾有の危機に際し、私自身が引き続き先頭に立つ覚悟です。困難な時代を市民と共に乗り越え、奈良の未来に向け確かな道を切り拓いて参ります。

市政の動きやマニフェストの進捗状況など、最新情報はツイッター、ブログ、インスタグラムにて更新中!



@nakagawagen

仲川 げん

nakagawa_gen



■ Profile

1976年生まれ。北大和(現奈良北)高校・立命館大学卒業。2009年の就任以来、市民目線で様々な市政改革に取り組む。中核市市長会や奈良県市長会の会長も務め、地方や現場の声を国や県にも積極的に届けてきた。「日本を立て直す100人」(AERA)選出。3人の子どもと妻、猫(21歳)の6人家族。

テーマ別実績報告

12年の主な取り組み

旧佐紀幼稚園にフードバンクセンターを設置

奈良市では現在、ひとり親家庭など生活に困窮する子育て家庭に対し、市民や事業者から提供された食糧をお配りするフードバンク事業に力を入れています。本事業はNPOのフードバンク奈良や地域の社会福祉協議会などにもご協力いただき、まさに市民力を結集して取り組んでいます。回を重ねるごとに支援の輪が広がり、センターは連日多くのボランティアで支えて頂いています。利用者アンケートには「とても助かった」という声と共に「自分の物はなかなか買えないので、靴下がうれしかった」「コロナで減った収入が回復せずギリギリ」という切実な声が寄せられました。また「頼れる両親がいなくて不安だったが、助けてくれる人がいると分かって安心した」「支えて下さる多くの方の気持ちが伝わり、優しい気持ちになった。将来はサポートする側で活動したい」というコメントもいただきました。



本庁舎耐震化工事が完了しました

昭和52年に完成した現庁舎は耐震化とリフォームをすればまだ使えることから、約1年半に渡り工事を実施してきました。極力市民負担を抑えるため、防災対策の国の有利な財源を活用したことで総事業費約36億円のうち市の負担は約19億円になります。エレベータの入替やトイレの洋式化のほか、利用者の多い窓口課の集約を図り利便性も向上しました。

大和西大寺駅が大きく変わります

昭和63年に都市計画決定された大和西大寺駅周辺整備事業のゴールが見えてきました。今春からは駅南口広場がオープンし、路線バスや空港リムジンなども発着します。北口広場は暫定供用となりますが2年後には現在の約2倍の面積に拡大、奈良の玄関口としての機能が大幅に向上する予定です。またこれまで往来が困難だった車いすやベビーカーも南北自由通路で楽に移動できるようになりました。



3期目も退職金を返上

コロナの影響で厳しい暮らしを強いられる中、その気持ちに寄り添い、また少しでも市の財政に役立てるため今期分2515万2000円を返上(不支給)とする議案を3月定例会に提出し可決されました。退職金については既に一期目・二期目と返上を続けて来ましたが、今期分を合わせると累計で約8100万円の返上となります。なお給与制度の見直しとしては就任後に給料月額を8万2000円下げしており、また一昨年から管理職加算を廃止。これらの改定で市長分だけで年間約200万円の独自カットになります。さらに昨年はコロナ対策の財源ねん出の為、夏冬のボーナスも3割カットを実行しました。報酬に見合う仕事をすれば良いという声も頂きますが、厳しい時代のトップの姿勢として取り組んでいます。

仲川げん後援会

〒630-8244

奈良市三条町511 正木ビル6階

0742-81-8338

ボランティア
募集中!

■ ご意見をお待ちしています

「市長への手紙」であなたの声をお聞かせください。「市長への手紙」は、市民の皆さんの市政に対するご意見やご提言を広く市政に反映させる制度として実施します。専用封筒は、市役所や公民館などの市の施設に配置しています。

